

令和 8 年度
全国学力・学習状況調査の結果



長門市教育委員会学校教育課

I 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査実施日

【小学校】教科に関する調査	令和8年4月23日（木）
児童質問調査	令和8年4月24日（金）～5月8日（金）
【中学校】国語・数学	令和8年4月23日（木）
生徒質問調査	令和8年4月20日（月）～23日（木）
英語（読む・書く・聞く）	令和8年4月20日（月）～23日（木）
英語（話すこと）	令和8年4月24日（金）～5月29日（金）

(3) 調査対象 小学校第6学年、中学校第3学年

(4) 調査内容

①教科に関する調査（小学校…国語・算数、中学校…国語・数学・英語）

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

②質問調査

- ・児童生徒質問調査（小学校…73項目、中学校…93項目）
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

2 教科に関する調査の結果

(○：比較的良好にできている点 ●：課題がある点)

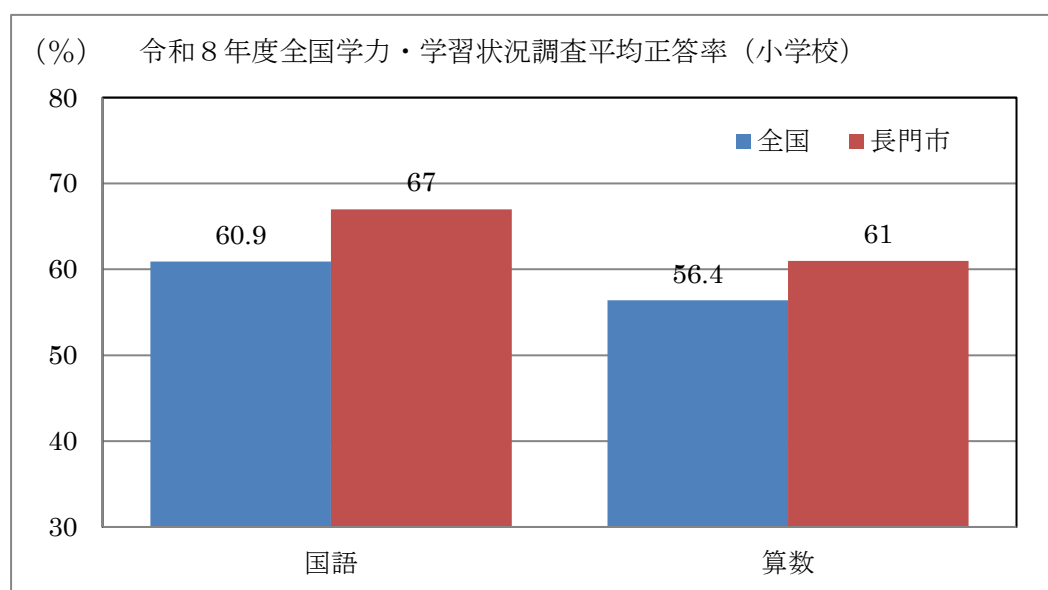
(1) 小学校

	平均正答数（問）		平均正答率（％）	
	全国	長門市	全国	長門市
国語	7.9／13 問	8.7／13 問	60.9	67
算数	9.0／16 問	9.7／16 問	56.4	61

※学力調査結果についてのグラフの見方

学力調査結果は、全国と長門市の平均正答率を示している。

平成29年度から、県や市の平均正答率は整数値で提供されている。



国語においては全国平均を 6.1 ポイント、算数は 4.6 ポイントと全ての教科で全国平均を上回った。

【国語科】

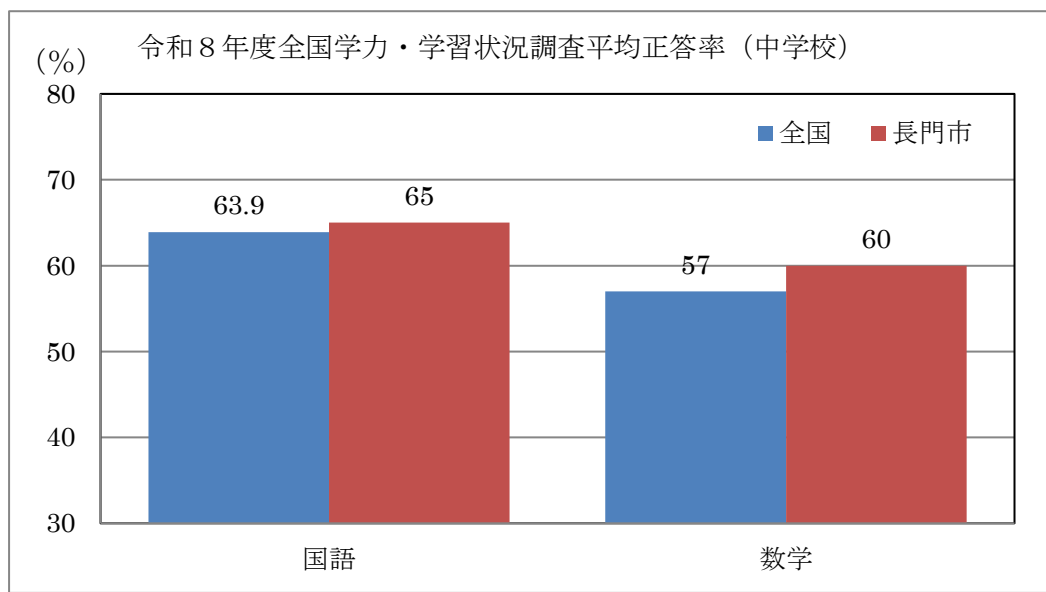
- 比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと。(＋13)
- 引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。(＋13.4)
- 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。(＋9.9)
- 目的に応じて、必要な情報を見付けること。(－4.1)

【算数科】

- 立方体の体積の計算による求め方を理解すること。(＋13.3)
- 異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述すること。(＋11.9)
- 示された2つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述すること。(＋10.8)
- 基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶこと。(－3.5)

(2) 中学校 ※英語は CBT による調査のため実施日により問題が異なり、国・数と同様の結果表示はできない。

	平均正答数 (問)		平均正答率 (%)	
	全国	長門市	全国	長門市
国語	9.6 / 15 問	9.8 / 15 問	63.9	65
数学	9.1 / 16 問	9.7 / 16 問	57.0	60
英語	3.7 / 7 問	3.8 / 7 問		



平成 30 年度の調査から、全ての教科において全国平均を上回っている。
令和 8 年度の調査においても、国語が 1.1 ポイント、数学が 3 ポイント上回った。

【国語科】

- 単語の活用について理解すること。(＋6.1)
- 必要に応じて質問しながら話の内容を捉えること。(＋4.1)
- 文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うこと。(＋4.3)
- 単語の類別について理解すること。(－6.9)

【数学科】

- 累積度数の意味を理解すること。(＋10.1)
- 都合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明すること。(＋9.9)
- 反比例の関係を表す表の特徴を捉え、 x の値に対応する y の値を求めること。(＋7.8)
- 具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すこと。(－4.4)

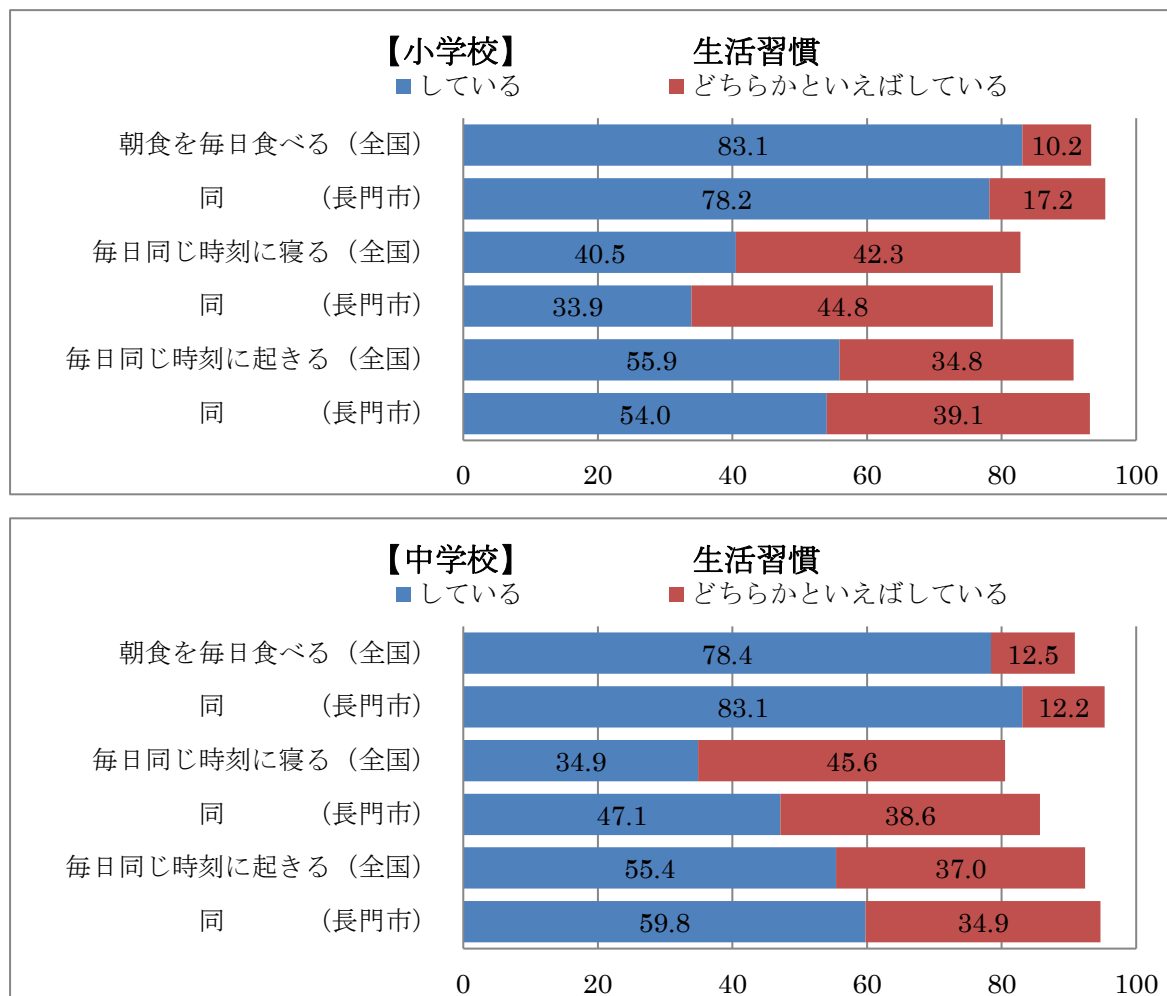
【英語】※公開問題別調査結果

- 日常的な話題について、目的に応じて必要な情報を読み取ること。(＋14.7)
- 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ること。(＋7.2)
- 日常的な話題について、短い文章を読み概要を捉えること。(－8.4)

3 児童・生徒質問紙集計結果

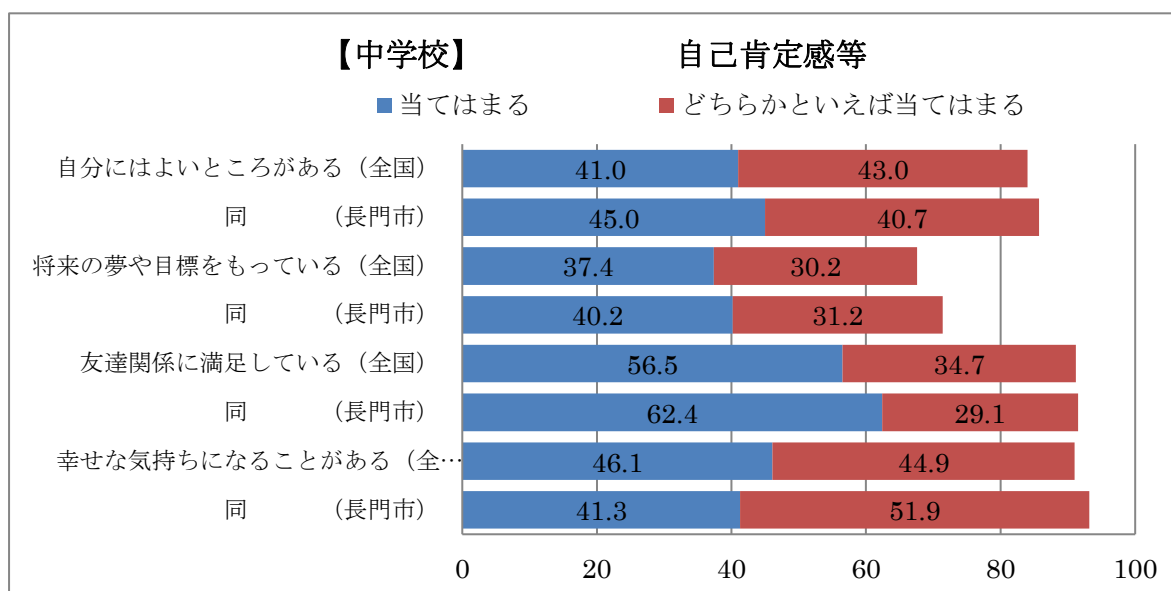
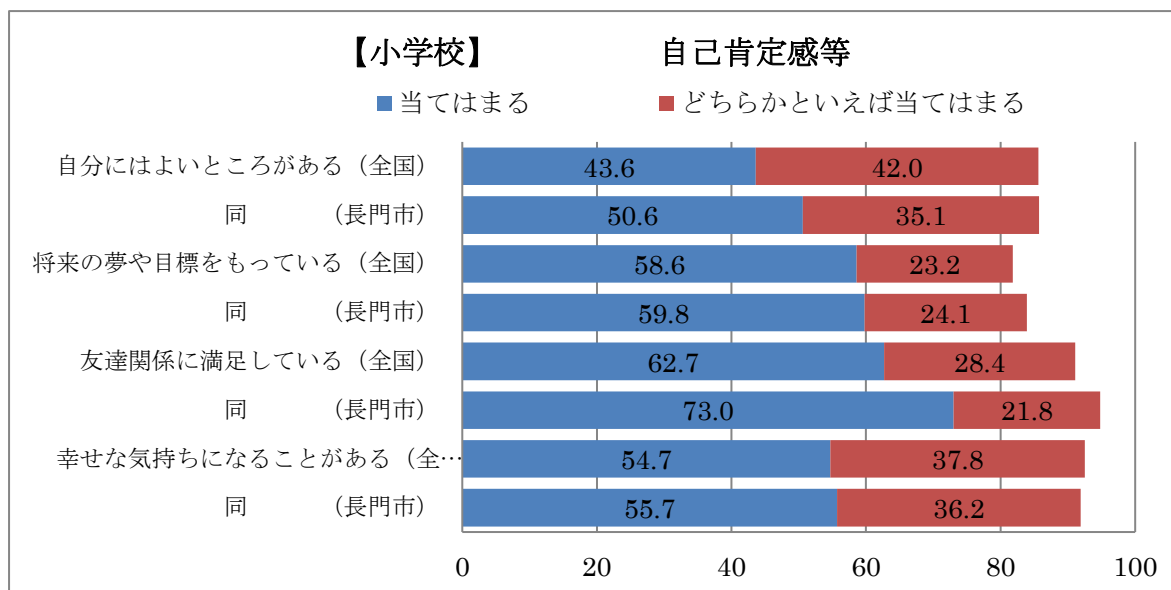
(○:よい点 ●:課題がある点)

(1) 生活習慣など

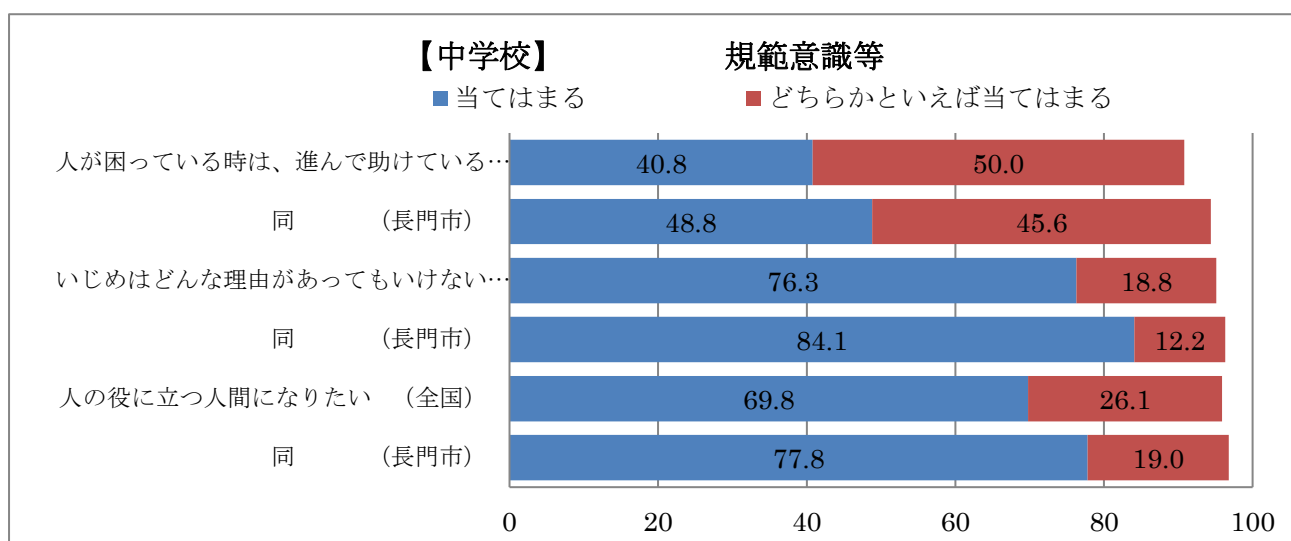
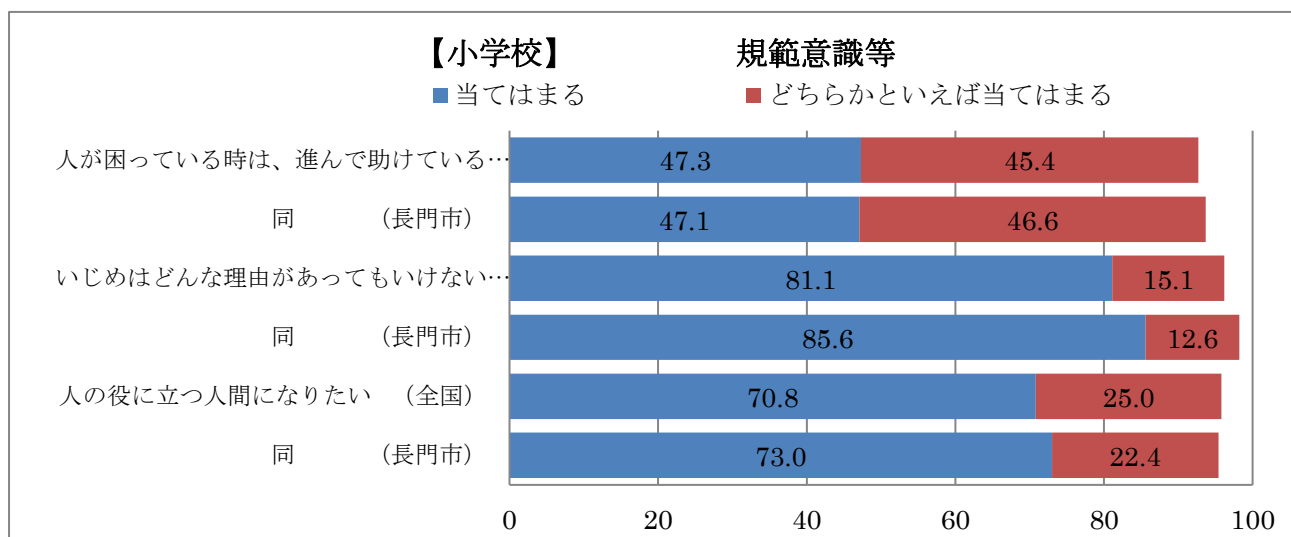


- 中学校においてはすべての項目で全国を上回っている。特に毎日同じ時刻に寝ると答えた生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 小学校においてはすべての項目で全国を下回っている。

(2) 意識や経験など

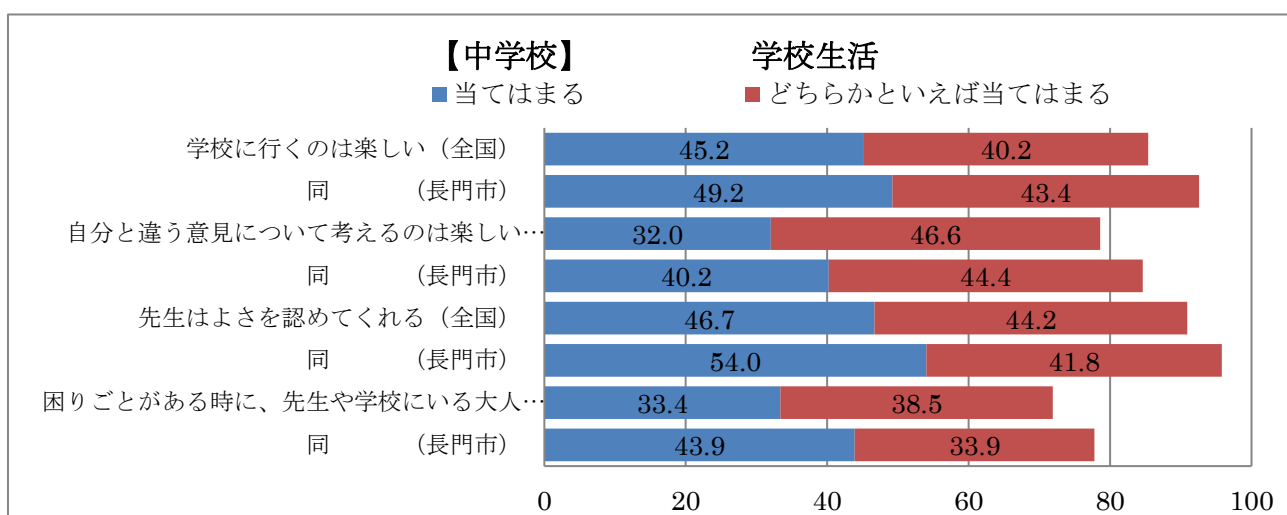
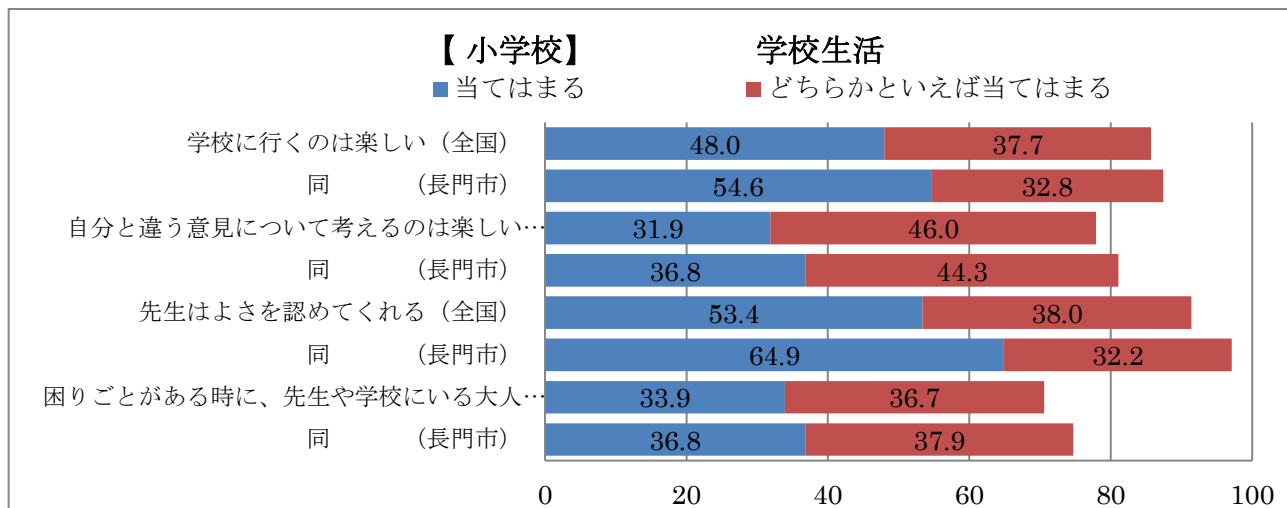


- 小学校において、「自分にはよいところがあると思う」と「友達関係に満足している」と回答した児童は全国と比べて高い。また、「将来の夢や目標をもっている」と「幸せな気持ちになることがある」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べてやや高い。



- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童生徒の割合は全国と比べて高い。
- 中学校において「人が困っている時は、進んで助けている」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した生徒の割合は、全国と比べて高い。

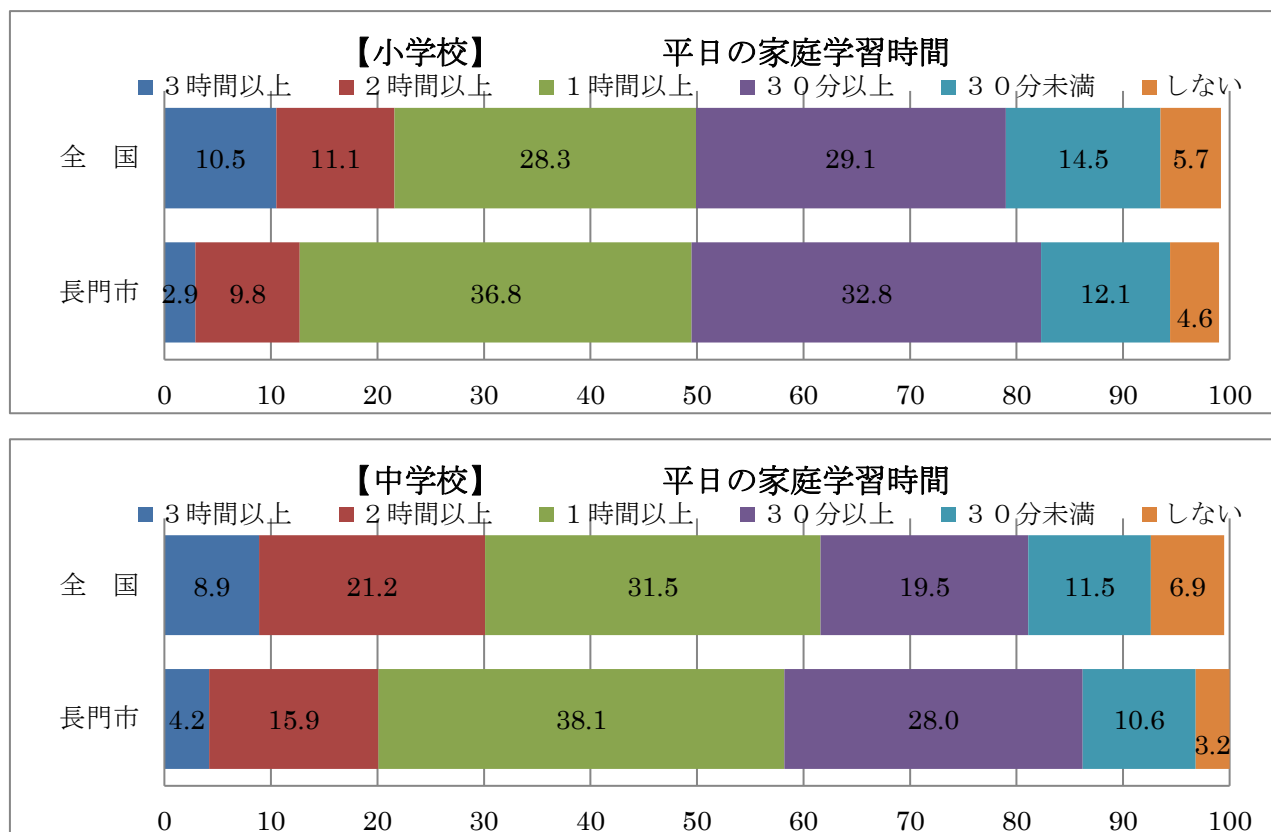
(3) 学校生活など



- 全ての項目について全国と比べて高い。
- 特に、小学校において「先生は、よさを認めてくれていると思う」と回答した児童の割合は、全国と比べて高い。
- 中学校において、困りごとがある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると回答した生徒の割合は全国と比べて高い。

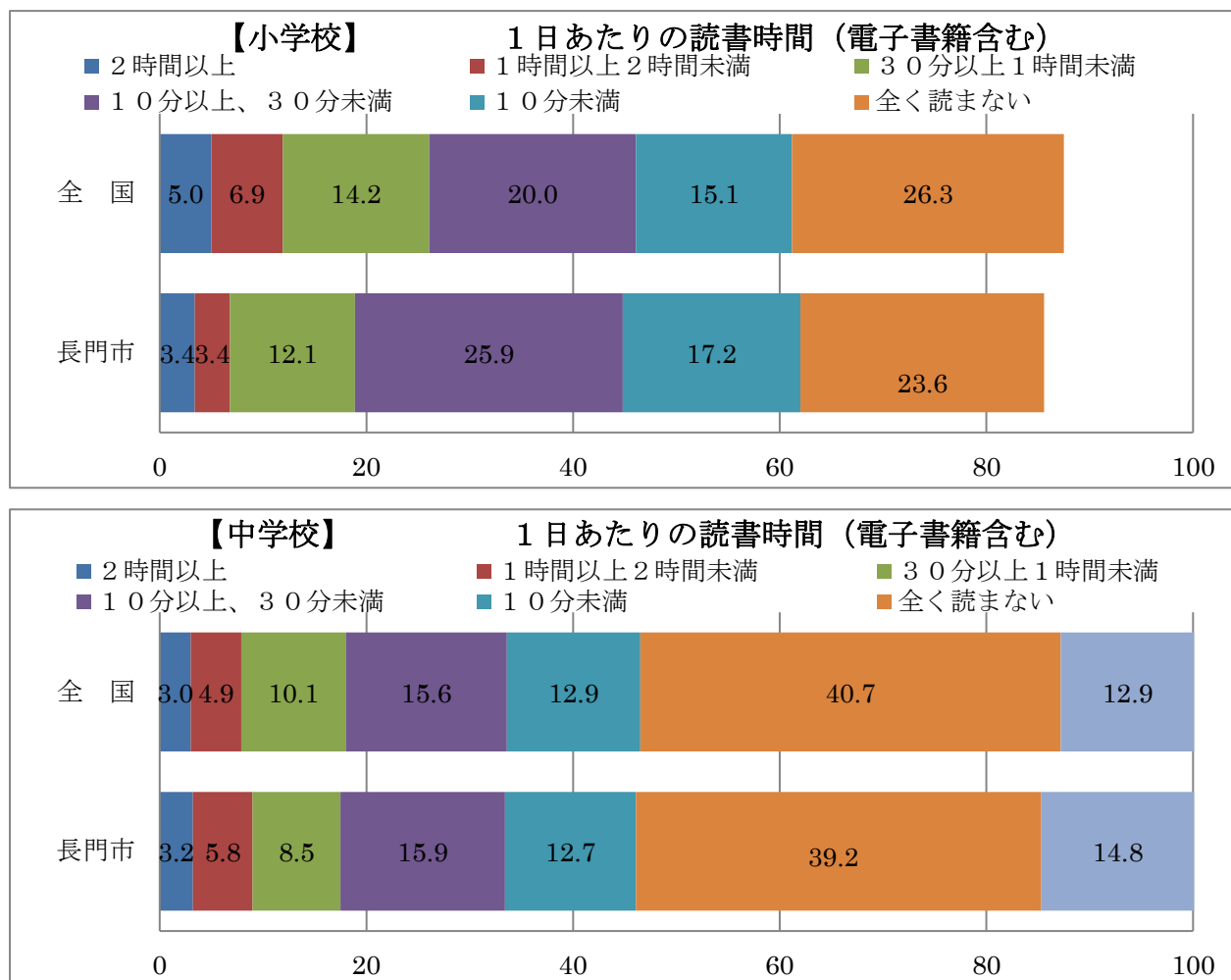
(4) 家庭学習

※学校の授業時間以外の1日当たりの勉強時間（学習塾、家庭教師、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



- 小学校、中学校ともに、家庭学習を30分以上している児童生徒の割合は全国と比べて高い。
- 小学校、中学校ともに、家庭で2時間以上学習する習慣のある児童生徒の割合は全国よりも低い。

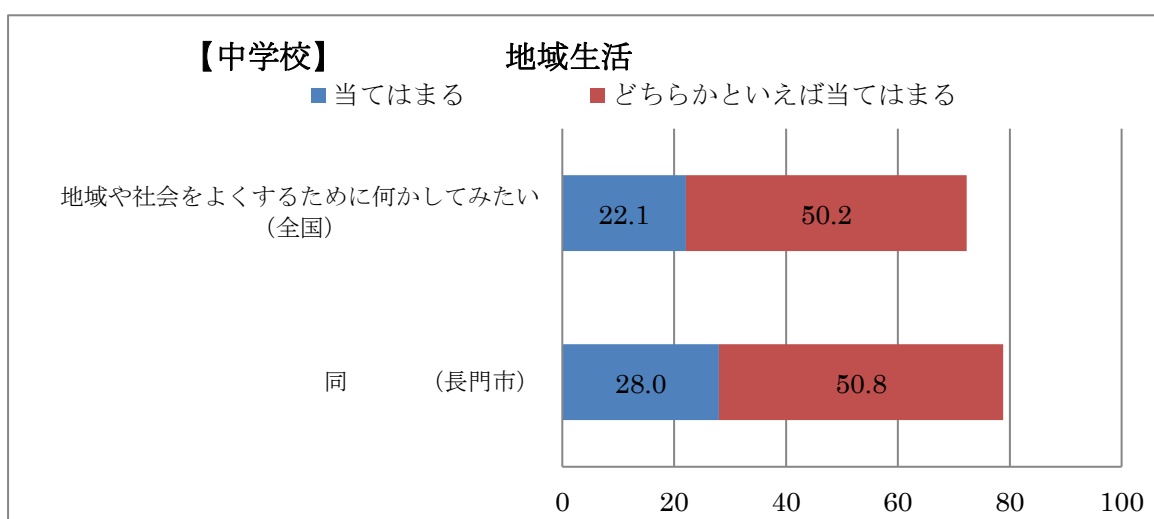
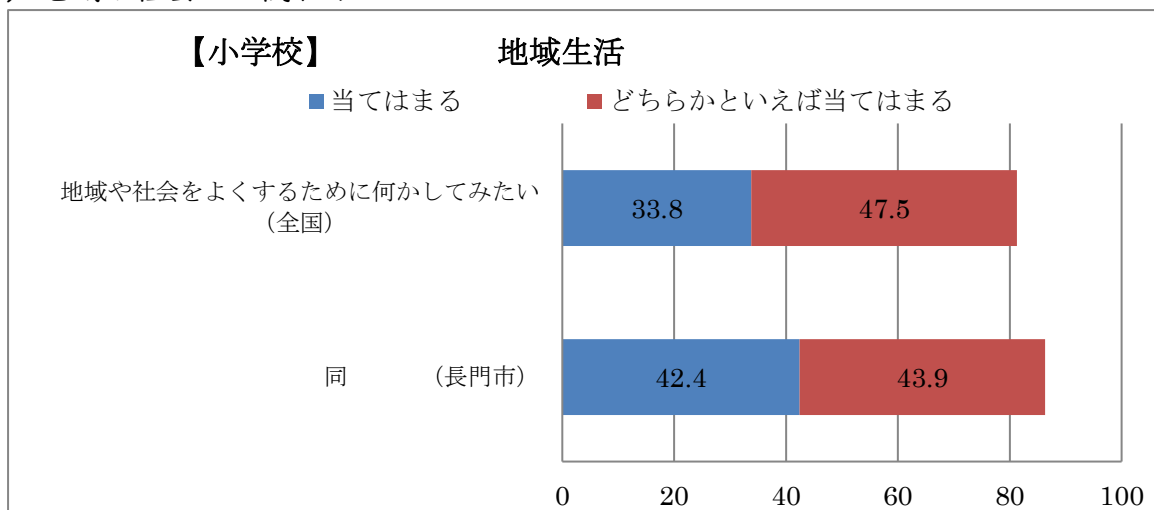
(5) 読書時間



○ 小学校において、10分以上の読書習慣がある児童生徒の割合は全国よりもやや高い。

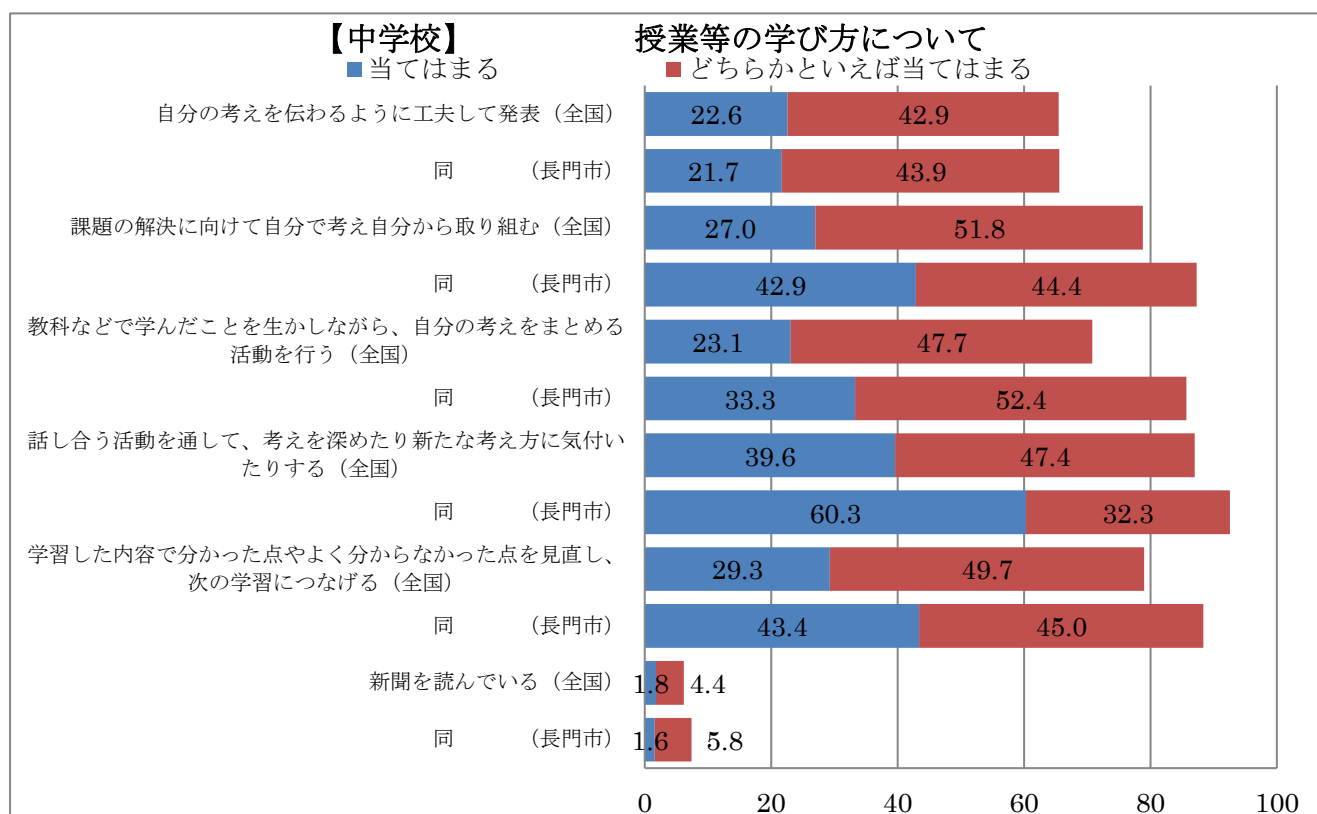
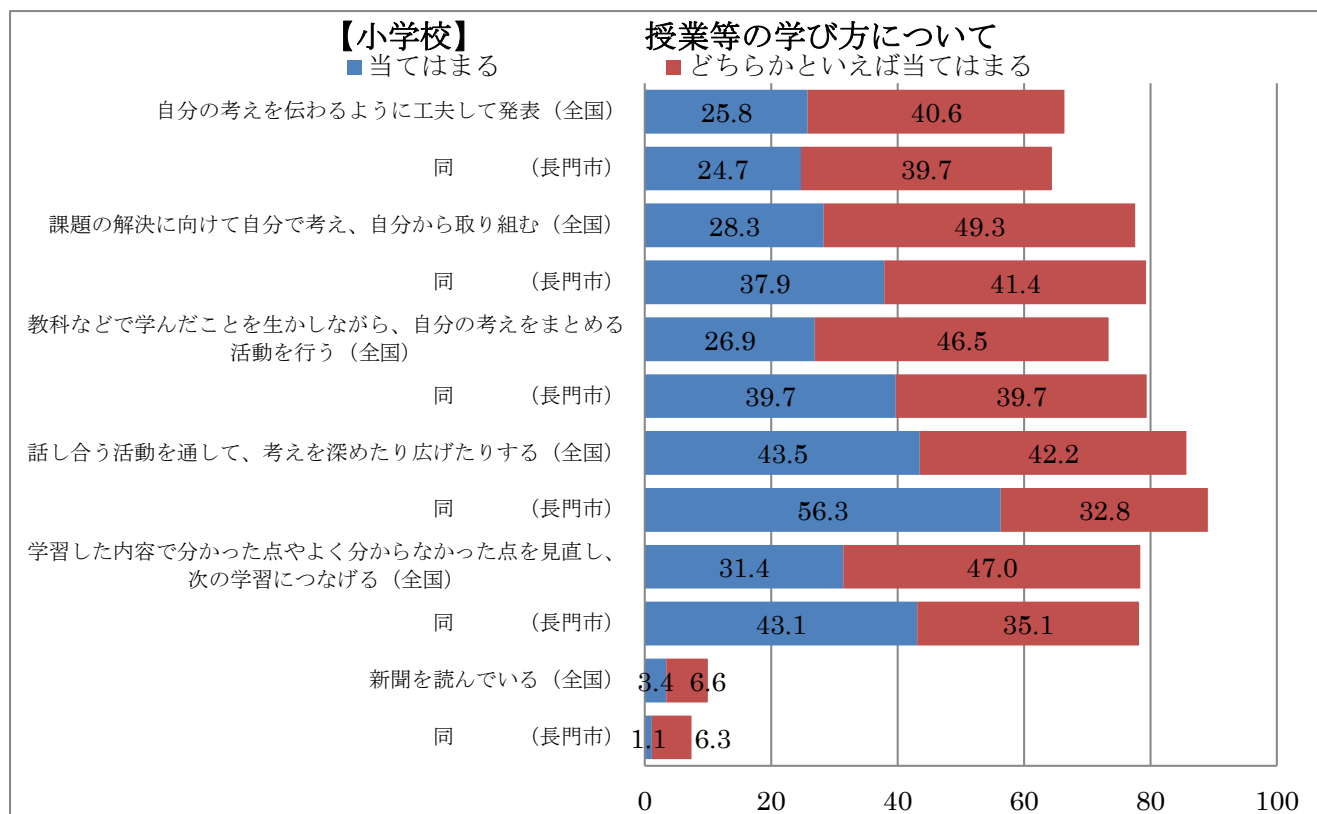
● 中学校において、「全く読まない」割合が他の項目の割合より高い。

(6) 地域や社会との関わり

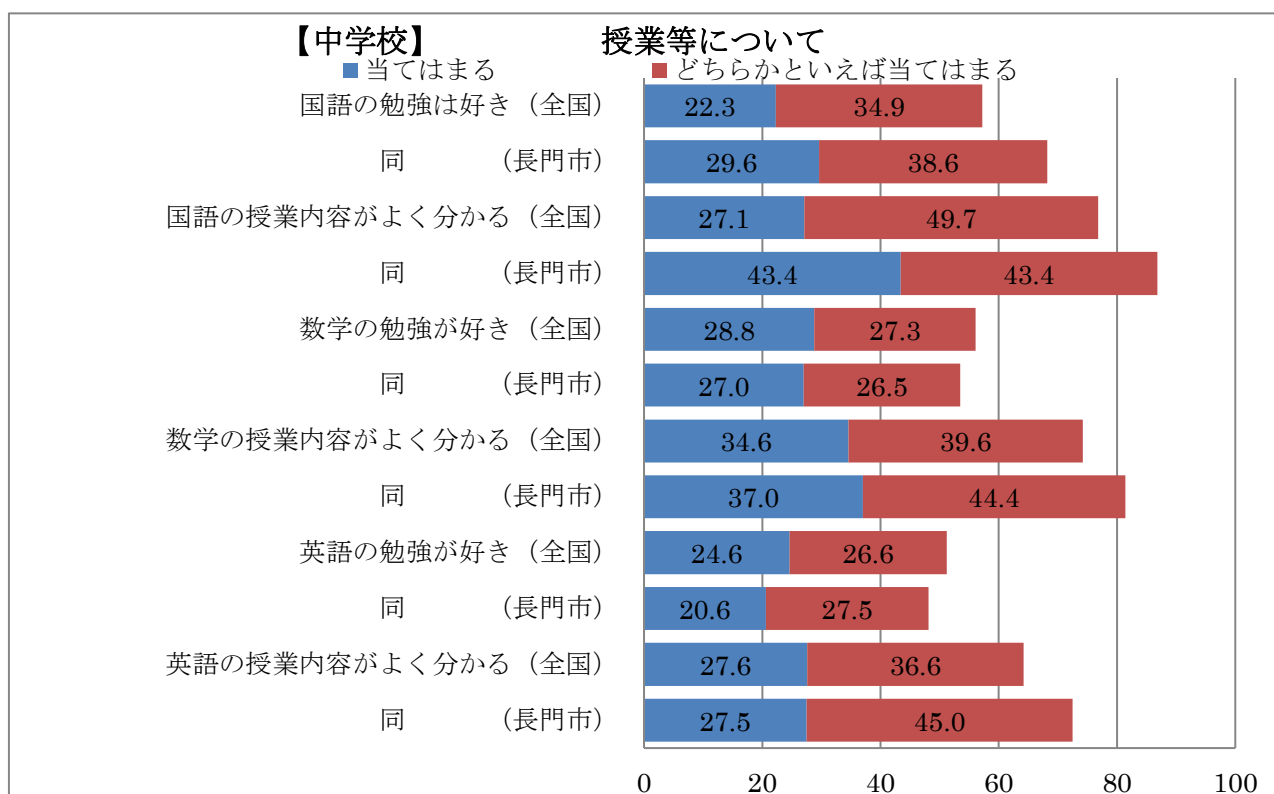
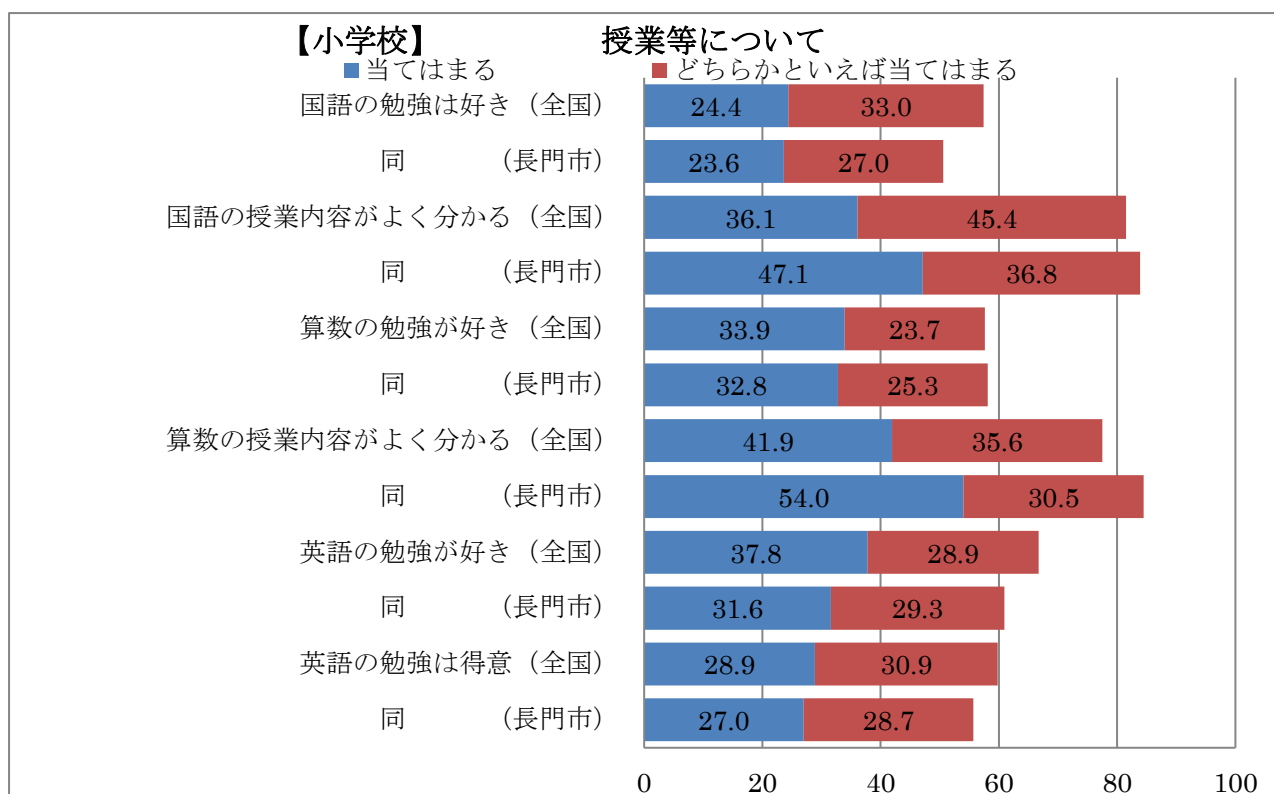


- 「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。

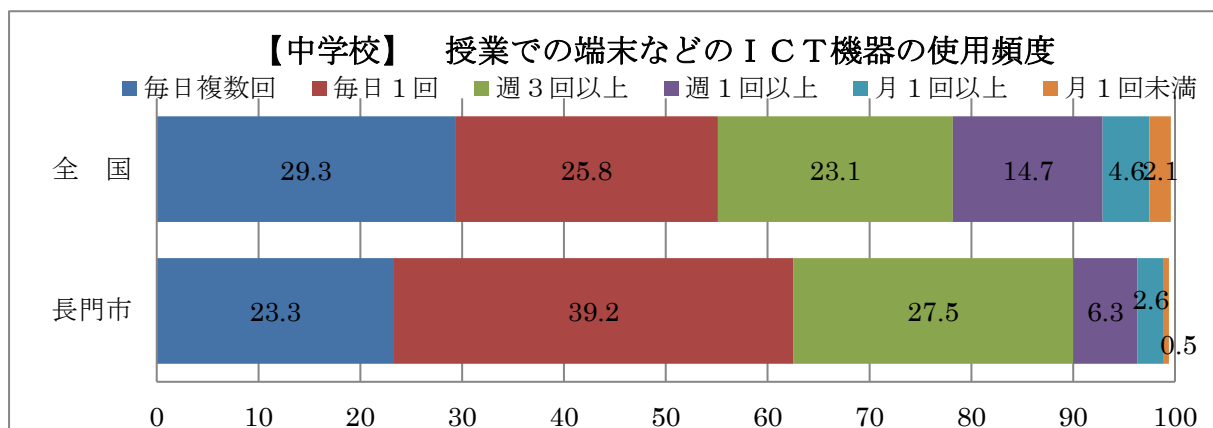
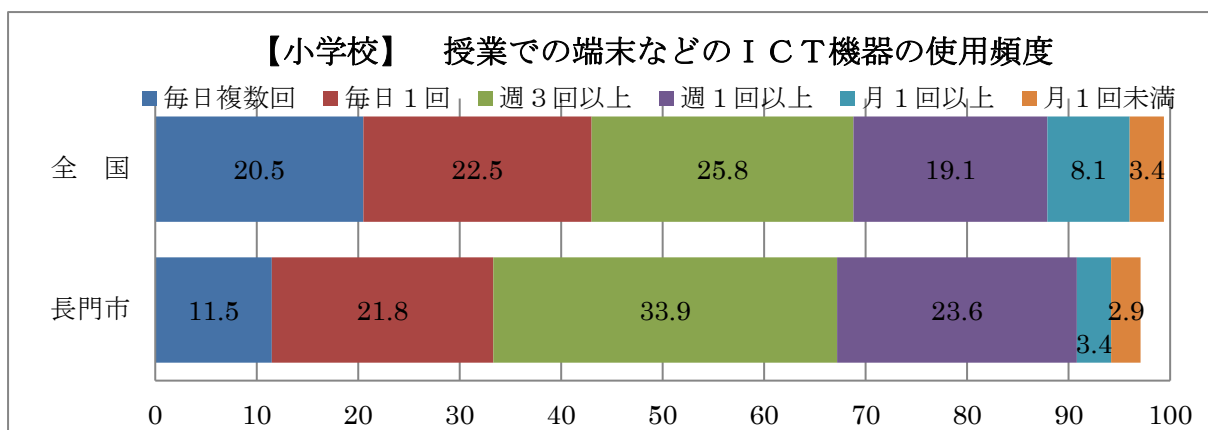
(7) 学びに向かう姿勢・授業、ICTなど



- 小学校、中学校ともに「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べてかなり高い。



○ 小学校、中学校ともに、国語、算数・数学において、「授業内容がよく分かる」と回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。



- 授業ではほぼ毎日または週1回以上、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使用すると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 中学校において、毎日1回以上ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使用すると回答した生徒の割合は、全国と比べて高い。
- 毎日の授業で複数回ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使用すると回答した児童生徒の割合は、全国と比べて低い。

4 学力向上に向けた今年度の取組

(1) 学校での組織的な取組の推進

- ・誤答分析を基にした学力課題の焦点化と解決の方策について、学校全体で共有し、「長門市授業づくりのポイント5」を基盤とした「全校で取り組む共通実践」を設定するなど、全校体制での学力向上を推進する。
- ・年間2回実施する市教委主催の「学力向上プラン検討会」において、市の課題やめざす授業の方向性を共有するとともに、各校のプランの見直しや改善を図り、授業改善を推進する。

(2) 教員の授業力の向上

- ・年間5回以上の「児童生徒による授業評価」を基に、子どもの思いや願いに寄り添った、「わかる・できる」につながる楽しい授業づくりを推進する。
- ・各学校で作成した「学力向上プラン」での取組を共有し、それぞれの公務分掌におけるアプローチの仕方を考えていく機会を設けることで全校体制での学力向上の推進を図る。
- ・身に付けさせたい資質・能力が身に付いたかどうか、教師も児童生徒も確認できるように、授業の「振り返り」で引き出したい言葉を念頭に授業を組み立てる。
- ・各教科における思考力・判断力・表現力（特に根拠を明確にして説明すること）の育成に重点を置いて、指導方法の工夫改善を推進する。
- ・学習の基盤となる情報活用能力の育成をめざし、授業における1人1台端末の効果的な活用を促進するとともに、教員のICT指導力の向上をめざし、研修や情報共有等を更に充実させる。また、生成AIの利活用を通して、授業準備などの効率化を図り、多様な学習ニーズに応えることをめざす。

(3) 学校・家庭・地域の連携力の強化

- ・小学校4～6年、中学校全学年を対象に導入した「やまぷりCBT」を活用し、個に応じた学習を進めたり、即時フィードバックができることで苦手やつまずきを復習させたりすることにより児童生徒の学習状況を把握する。また、平常時における1人1台端末の持ち帰りを推進し、家庭学習の充実を図る。
- ・家庭との一層の連携により、家庭学習や読書習慣の定着を図る。
- ・「学びや育ちのカリキュラム（学校・地域連携カリキュラム）」において、身に付けさせたい資質・能力を明確にし、共有することで、地域との連携や小中連携を重視した学力向上の取組を推進する。

※児童生徒一人ひとりの確かな学力の定着と向上をめざして、学校担当指導主事が各校の伴走支援を行ったり、指導力向上のための研修会を実施したりするなど、学校の組織力・教員の授業力・家庭や地域との連携力の強化に努める。

■調査問題・正答例・結果の詳細等については、下記HPをご覧ください。

- ・ [国立教育政策研修所 教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」](#)
- ・ [山口県教育委員会 義務教育課 「令和8年度 全国学力・学習状況調査結果について」](#)

